



「安心・安全なデジタル化で ケアに向き合う時間を最大化する」について

皆様も日々の業務で実感されている通り、介護認定調査、とりわけ「特記事項」の作成や記録の整理には、多大な労力と時間がかかっていることと存じます。今回は、身近なツールであるスマートフォンと、近年注目を集めている生成AI技術を組み合わせることで、皆様の業務負担を大幅に軽減する新しい手法について参考にご提案させていただきます。

「記録」にかかる時間を減らし、



目的

認定調査時の音声をオフラインでテキスト化し、生成AI (NotebookLM) で整理。特記事項の作成と調査票記入の負担を劇的に軽減します。

「ケア」に向き合う時間を増やす



期待される効果



NotebookLM

本取り組みの最大のテーマは、「『記録』にかかる時間を減らし、『ケア』に向き合う時間を増やす」ことです。

画面左側のイラストをご覧ください。皆様もよくご経験されているかと思いますが、これまでの認定調査では、訪問調査の後に持ち帰って行う記録作業、特に特記事項の作成に非常に長い時間と労力を割かれていたのではないのでしょうか。書類の山を前に、残業を余儀なくされている方も少なくないと思います。

今回ご提案する新しい手法の目的は、この状況を打破することです。具体的には、認定調査時の音声をスマートフォンの機能でオフラインでテキスト化し、それを生成AIである「NotebookLM」を使って整理します。これにより、特記事項の作成と調査票記入にかかる負担を劇的に軽減します。

画面右側の下部にある「期待される効果」をご覧ください。この手法を導入することで、大きく3つのメリットがあります。

1つ目は、「残業時間の削減」です。記録にかかる時間が大幅に短縮されるため、皆様の働き方改革に直結します。

2つ目は、「記録作業の精神的負担軽減」です。白紙の状態から文章をひねり出す苦労やプレッシャーから解放されます。

そして3つ目は、「調査内容の漏れ防止と正確な反映」です。

会話の音声データを基にAIが整理を行うため、ご家族との何気ない会話の中にある重要

な情報の聞き漏らしを防ぎ、より正確な記録を作成することができます。
事務作業をAIの力で効率化し、皆様には本来の目的である「利用者様への
ケア」にしっかりと向き合う時間を増やしていただきたいと考えております。

【重要】利用における絶対原則：個人情報の保護



大原則: データの即時削除



録音



文字起こし



AI処理



【即時削除！】

利用者のプライバシーを保護するため、調査票の作成完了後、スマートフォン内の録音データおよびテキストデータは速やかに、かつ確実に削除してください。

NotebookLM

本手法を利用するにあたり、最も重要かつ絶対に守っていただきたい原則についてご説明します。

それは「個人情報の保護」です。

画面中央に大きく記載している通り、大原則は「データの即時削除」となります。

業務の流れとしては、調査時の会話をスマートフォンで「録音」し、「文字起こし」をした上で「AI処理」を行いますが、最も重要なのはその後のステップです。

利用者様のプライバシーを確実に保護するため、調査票の作成が完了した後は、スマートフォン内に残っている「録音データ」および「テキストデータ」を、速やかに、かつ確実に削除してください。

便利なツールを使用する一方で、この「即時削除」のルールを徹底していただくことが、本手法を安全に運用していくための大前提となります。

何卒よろしくお願いいたします。

AI業務改革の全体像：3つのツールを連携



NotebookLM

今回のAIを活用した業務改革の全体像についてご説明します。

画面にあります通り、この新しいワークフローは「入力」「頭脳」「出力」の3つのステップとツールを連携させることで成り立っています。

まず、左側の「入力」です。ここでは、皆様がお持ちのスマートフォンを使用します。

「大前提として「訪問調査時の会話を全て録音してください。」

録音した会話をそのままスマートフォン内で音声を文字データへと変換（文字起こし）します。

次に、中央の「頭脳」のステップです。ここが今回の最大のポイントになります。生成AIである「NotebookLM」に、公式ルールブックである「認定調査員テキスト2009」のPDFデータを読み込ませます。AIをそのまま使うのではなく、事前に公式の基準やルールをしっかりと学習させることで、精度の高い「頭脳」を作り上げます。

そして最後に、右側の「出力」です。公式ルールを学習したAIに対して、先ほどスマートフォンで作成した文字起こしデータを入力します。すると、AIが内容を分析・整理し、認定調査の基準に沿った「整理された特記事項案」を一瞬で作成してくれます。

このように、「スマートフォンでのオフライン音声文字起こし」「NotebookLMによるAI処理」、そして「公式テキストによるルール学習」、この3つを連携させることが、今回

の業務改革の全体像となります。

事前準備：AIに「認定調査の基準」を教え込む



- 1 アクセス: PC等で生成AI「NotebookLM」を開く。
- 2 学習: 「認定調査員テキスト2009」のPDFデータをアップロードする。
- 3 保存: ノートブックの名称を「認定調査員テキスト2009」として保存。

公式テキストを読み込ませることで、AIが基準から外れた勝手な文章を作る（ハルシネーション）を防ぎます。

NotebookLM

ここからは、日々の業務の中で実際に行っていただく具体的な手順についてご説明いたします。まずは最初のステップ、「AIへの事前準備」です。

前段で少し触れましたが、生成AIをただそのまま使うだけでは正確な調査票は作れません。あらかじめAIに対して「認定調査の基準」を教え込む作業が必要になります。手順は非常にシンプルで、画面右側に記載している3つのステップで行います。

まず1つ目、パソコン等で今回使用する生成AI「NotebookLM（ノートブックエルエム）」にアクセスして開きます。

次に2つ目、「学習」のステップです。お手持ちの「認定調査員テキスト2009」のPDFデータを、このNotebookLMにアップロードします。

そして3つ目、「保存」です。今PDFを読み込ませた作業スペース（ノートブックと呼びます）の名称を、分かりやすく「認定調査員テキスト2009」として保存してください。

準備はこれで完了です。

画面右下にも記載しておりますが、この準備作業には非常に重要な意味があります。公式テキストをあらかじめ読み込ませておくことで、AIが基準から外れた勝手な文章を作り出してしまう「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」という現象を防ぐことができます。

精度の高い、正確な特記事項を作成するための「AIの基礎固め」とお考えください。

手順① 文字起こしデータの抽出 (iPhoneの場合)

外部共有 (エクスポート) 機能は絶対に使用せず、直接コピーしてください。



NotebookLM

ここからは、実際の調査を終えた後の具体的な作業手順に入ります。まずは「手順①：文字起こしデータの抽出」です。このページでは、iPhoneを使用した場合の操作方法をご説明します。

具体的なコピーの手順です。画面右側の3つのステップをご覧ください。

まず、ステップ1です。iPhoneに標準で入っている「ボイスメモ」アプリを開き、該当する調査の録音データを選択します。

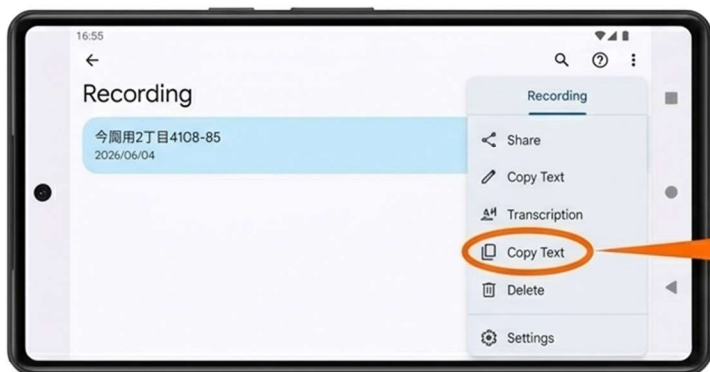
次に、ステップ2です。録音データを選択すると表示される、丸の中に3つの点がある「メニューアイコン (...)」をタップしてください。

最後に、ステップ3です。メニューが開きますので、その中にある「文字起こしをコピー」をタップします。

操作はたったこれだけです。これで、録音された会話のテキストデータがスマートフォンの中に一時的にコピーされた状態になります。

手順① 文字起こしデータの抽出（Androidの場合）

外部共有（エクスポート）機能は絶対に使用せず、直接コピーしてください。



その他の端末でも、文字起こし機能付きのレコーダーアプリで同様の操作が可能です。常に「外部アプリへの共有」ではなく「テキストの直接コピー」を徹底してください。

NotebookLM

こちらはAndroidスマートフォン、特にGoogle Pixelシリーズを例にした「文字起こしデータの抽出手順」となります。

先ほどのiPhoneでのご説明と重複いたしますが、画面上部のオレンジ色の枠にある通り、「外部共有（エクスポート）機能は絶対に使用せず、直接コピーする」という点は、機種を問わず共通の絶対ルールです。情報漏洩を防ぐため、この点は徹底をお願いいたします。

それでは、画面右側の基本フローをご覧ください。

まず、ステップ1です。スマートフォンに入っている「レコーダー」アプリを開きます。次に、ステップ2です。画面上の「文字起こし」タブを選択して、録音された音声のテキスト画面を表示させます。

そして最後に、ステップ3です。表示されたテキストをすべて選択し、「コピー」をタップしてください。

これでスマートフォン内への一時的なコピーは完了です。

なお、画面下部にも記載しておりますが、Google Pixel以外のAndroid端末をお使いの場合でも、文字起こし機能が付いているレコーダーアプリであれば同様の操作が可能です。

手順② NotebookLMでの特記事項作成

作成したノートブック「認定調査員テキスト2009」のチャット欄に、以下のプロンプトと【手順①】でコピーしたテキストを貼り付けて送信します。

【入力プロンプト】（コピーして使用）

新しい調査です。認定調査員テキスト2009を参考に、下記の認定調査時に録音した文字起こしデータから、認定調査の項目に該当する特記事項を全て作成してください。

(ここにコピーした文字起こしデータを貼り付け)

NotebookLM

スマートフォンの音声から文字起こしデータをコピーできたら、次はいよいよNotebookLMを使った「特記事項」の作成に入ります。操作は非常にシンプルです。

まず、事前の準備段階でNotebookLM内に作成していただいた「認定調査員テキスト2009」というノートブック（作業スペース）を開きます。

次に、画面にあるチャット欄（入力欄）に、スライド中央の黒い枠の中に記載されている「入力プロンプト」を入力します。プロンプトとは、AIに対する指示のことです。「新しい調査です。認定調査員テキスト2009を参考に…」で始まるこの指示文は、定型文としてそのままコピーして毎回使い回していただくことができます。

そして、この指示文の下の点線部分に、先ほどの「手順①」でスマートフォンのでコピーした「会話の文字起こしデータ」をそのまま貼り付け（ペースト）してください。

あとは、送信ボタンを押すだけです。

たったこれだけの作業で、AIがアップロードされている公式テキストの基準と照らし合わせながら、皆様の会話データから必要な情報を拾い上げ、認定調査の項目に該当する特記事項の文章をあっという間に作成してくれます。

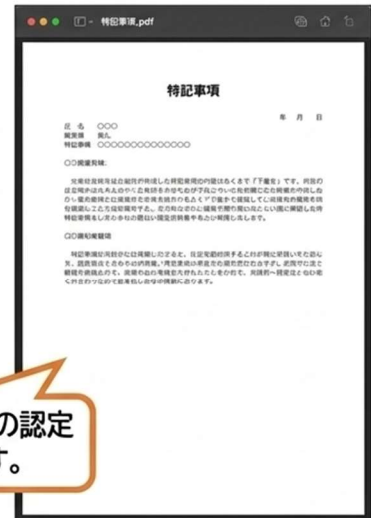
手順③ 調査票への記載（最終確認は必ず人間が）



精査・確認: NotebookLMが作成した特記事項の内容はあくまで「下書き」です。内容が正確か、適切な表現かを必ずケアマネジャーの目で確認・精査してください。



記載: 確認後、実際の認定調査票へ転記します。



AIは強力なアシスタントですが、最終的な責任と判断は専門職である皆様にあります。

NotebookLM

AIが特記事項の文章を作成した後の、「手順③ 調査票への記載」についてご説明します。ここは本日の説明会の中でも、特に強調してお伝えしたいポイントの一つです。

先ほどの手順でNotebookLMが作成した特記事項は、一見すると立派な文章に仕上がっているかもしれませんが、これはあくまで「下書き」であるという認識を必ず持ってください。AIは非常に優秀ですが、会話の微妙なニュアンスを読み違えたり、適切ではない表現を含んでしまう可能性はゼロではありません。

そのため、画面左側のルーペのイラストにありますように、AIが出力した内容はそのまま鵜呑みにせず、必ず専門職である皆様ご自身の目で「内容が正確か」「適切な表現になっているか」をしっかりと確認・精査していただく必要があります。

その上で、内容に問題がないことを確認し、必要であれば手直しを行った後、画面右側のように実際の認定調査票への転記作業を行ってください。

画面の一番下にも記載しておりますが、「AIは強力なアシスタントですが、最終的な責任と判断は専門職である皆様にあります」。このことを常に念頭に置いていただき、AIを「皆様の判断をサポートする便利な道具」として正しく活用していただければと存じます。

手順④ データの完全削除（業務完了の必須条件）

調査票への記載が完了したら、速やかに以下のデータを完全に削除してください。



【削除完了チェックリスト】

<input type="checkbox"/>	スマートフォン内のボイスメモ等の「録音データ」
<input type="checkbox"/>	録音アプリ内の「文字起こしテキスト」
<input type="checkbox"/>	コピー&ペーストに使用した「一時メモ」アプリ等のデータ

データの非保持が、事業所と利用者の双方を守ります。

NotebookLM

調査票への記載が終わりましたら、最後の仕上げとなる「手順④ データの完全削除」を行います。これは本日の業務フローにおいて、「業務完了の必須条件」となります。

3ページ目でも「大原則」としてお伝えしましたが、調査票への記載が完了しましたら、個人情報保護のため、速やかにデータを完全に削除してください。

削除漏れを防ぐため、画面右側に「削除完了チェックリスト」をご用意しました。以下の3点すべてが削除されているかを必ず確認してください。

1つ目は、スマートフォン内のボイスメモなどに残っている「録音データ」です。2つ目は、録音アプリ内に生成された「文字起こしテキスト」のデータです。そして3つ目は、作業中にコピー&ペーストなどで使用した「一時メモ」アプリなどに残っているデータです。

これらすべてのデータを確実に消去し、スマートフォン等に一切の記録を残さないようにしてください。

画面の下部にも記載しておりますが、「データの非保持が、事業所と利用者の双方を守ります」。万が一の紛失や漏洩といったセキュリティリスクを根絶するためにも、この「完全削除」を毎回の業務のルーティンとして徹底していただきますよう、強くお願いいたします。

まとめ：新しいワークフローで業務をスマートに



ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。
共に業務環境を改善していきましょう。

伊勢崎市 介護保険課
0270-27-2743 / kaigo@city.isesaki.lg.jp

NotebookLM

本日のまとめとして、今回ご提案した「新しいワークフロー」の全体像を4つのステップで振り返ります。

まず「1. 準備」として、事前に公式テキストをAIに学習させます。

次に「2. 抽出」です。実際の訪問調査後、スマートフォン内で音声をテキスト化し、そのデータをコピーします。

そして「3. 生成」、専用のプロンプトを使って、AIに一瞬で特記事項の下書きを作成させます。

最後に最も重要な「4. 削除」です。調査票への記載が完了したら、個人情報保護のために使用した全データを即時消去します。

手順は以上となります。最初は慣れない部分もあるかもしれませんが、この新しいワークフローを導入することで、皆様の記録業務は確実にスマートになり、本来のケア業務に充てる時間が増えるはずです。

本日のご説明でご不明な点や、実際に導入を進める中で迷うことがございましたら、画面下部に記載しております「伊勢崎市 介護保険課」まで、お電話（0270-27-2743）またはメール（kaigo@city.isesaki.lg.jp）にて、どうぞお気軽にお問い合わせください。

最新の技術を安全に活用し、共に皆様の業務環境を改善していきましょう。